

肺腺癌の多段階発がん過程における 免疫環境と遺伝子異常の解析研究

1. 研究の対象

2018年1月～2023年1月までに国立がん研究センター中央病院で手術治療を受け、肺の異型腺腫様過形成、上皮内腺癌、微小浸潤性腺癌、浸潤性腺癌と診断されている方

2. 研究目的・方法

肺がんは死亡率が最も高い難治がんです。肺がんの克服のためには肺がんの発生・進展の分子機構や転移能等の特性を遺伝子レベルで明らかにし、その情報に基づいて新たな予防、診断、治療法を開発する必要があります。これまでの研究で、肺がんにおいては、p53, RB, p16, RASSF1, MYO18B 等のがん抑制遺伝子の不活化や KRAS, EGFR 等のがん遺伝子の活性化が生じていることや、遺伝子異常が果たす生物学的意義が明らかになってきています。しかしながら、これらの遺伝子だけでは、肺がんの発生・進展の分子機構や特性を十分には説明できず、更なる遺伝子解析を行うことで肺がんの発生・進展の分子機構や特性の全ぼうを明らかにする必要があります。現在の病理分類では肺腺癌の多段階発がん過程に対応して異型腺腫様過形成、上皮内腺癌、微小浸潤性腺癌、浸潤性腺癌が定義されています。早期肺腺癌を用いた遺伝子解析、免疫染色による腫瘍浸潤免疫細胞の同定や炎症性サイトカインの作用機序の解析などを行うことで肺がんの発生・進展にかかわるより重要な分子機構を明らかにし、新たな予防・治療法の開発に資する情報を得ることが本研究の目的です。本研究で得られた結果は、国内外の学会、論文等で公表し、その成果を広く医療の進歩のために還元します。これら情報の公開は、個人情報が含まれない形で行ないます。また、本研究の解析で得られた解析データの一部は、国内外の公的データベースを通じて公開することがあります。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療残余検体・バイオバンク採血検体を用います。また検体に附随した臨床情報(患者情報・生年月日・術前画像・腫瘍情報・予後など)を使用します。

4. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関への試料・情報の提供は、匿名化した情報のみを使用し特定の関係者以外が

アクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。あなたのデータを含む研究に関するデータや情報について、現段階でどこの国に提供されるかは決まっていますが、提供先が外国の研究機関や外国企業の場合には、その国でのプライバシー保護規定が定められていることを確認した上で、あなたを特定できる情報を含まない形にして提供いたします。

5. 研究組織

国立がん研究センター中央病院

(研究責任者)呼吸器外科科長 渡辺 俊一

(研究事務局)呼吸器外科医員 吉田 幸弘

Johnson & Johnson Enterprise Innovation, Inc

(施設研究責任者)Tom Wu

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

研究事務局:

国立がん研究センター中央病院呼吸器外科 医員 吉田幸弘

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL:03-3542-2511